

## Peppolが輝かせる「主役」たち ～中央フードサービス、デジタルインボイスの更なる「自分ごと」化～

2026年3月26日、デジタル庁は、中央フードサービス株式会社（大阪市福島区）の伊藤正太氏及び松田佳奈氏との間で、デジタルインボイスでの請求について、2025年中の進捗及び今後の展望等の確認を行いました。



イベントにて自社の取組をプレゼンする伊藤氏と松田氏（2026年3月6日）

「現状は“Beyond PoC”の具体的な取組を検討するフェーズ」にあるとし、「デジタルインボイスを単なる『便利なツール』として認識してもらうだけでなく、自社と取引先を『つなぎ』、そして両者の関係をより強いものにするツールとしても活用していくべく尽力している。次の飛躍、期待してもらいたい」（伊藤氏）と今後の展開について力強いメッセージがありました。

中央フードサービスは、まずグループ企業との間での取引に係る請求についてデジタルインボイスの利用を試み、その結果として、「デジタルインボイス対応ツールは問題なく導入でき、デジタルインボイスが便利なツールであることも実感できた」との話がありました。しかしながら、「その実感がごくごく一部の関係者に限られたものだった。その実感を自社、グループ企業のみならず、取引先の方に広げていくのは時間を要する取組」（松田氏）といった課題にも言及がありました。



商品説明のための二次元コードが付した

取引先とのコラボ商品（「抹茶フィナンシェ」）を販売